

「台湾産茶が日本に入りやすかった理由

- ①戦前から密接な関係にあり、業界人相互の顔見知りが多かったこと。
- ②台湾にとって輸出経費(輸送費等)が安い。
- ③日本から技術指導が手軽に受けられる。
- ④日本より茶生産諸経費が安く、有利な販売ができる。 (静岡県茶流通資料より)

国際収支第一主義をとっているため、海外から注文があれば、たとえそれが標準以下の低品質茶であっても特別許可を出すことがある。農林庁と農復会は、低品質茶の輸出は台湾の茶産業のためにならないので、その輸出には同調していない。しかし、政府の各機関が全体よりも一部にしか気を配らないので、低品質茶の輸出も許すことになり、結果的に台湾茶産業の発展が阻害されている。

「茶類(紅茶、緑茶、その他)の現状とその将来性について」P.24
昭和43年(1968年)1月 (株)富士経済

台湾からの緑茶輸入		
年次	数量(t)	金額(百万円)
昭和45年 (1970)	8,763 (100)	2,039 (100)
昭和55年 (1980)	3,639 (42)	1,523 (75)
平成2年 (1990)	773 (9)	285 (14)
平成12年 (2000)	170 (2)	70 (3)
平成22年 (2010)	33 (0.4)	17 (0.8)

資料:財務省通関統計

荒茶(緑茶)生産量(t)		
年次	静岡県	鹿児島県
昭和45年 (1970)	48,564 (100)	7,182 (100)
昭和55年 (1980)	50,100 (103)	13,600 (189)
平成2年 (1990)	44,100 (91)	13,800 (192)
平成12年 (2000)	39,400 (81)	18,900 (263)
平成22年 (2010)	33,400 (69)	24,600 (343)

資料:静岡地域センター

台湾茶の輸入が減少、消失に向かった原因

- ①日本緑茶に近い品質に変える(改善する)ことが出来なかった。
- ②日本国内の茶園造成が進み、緑茶生産量が激増した。
- ③日本国内の需給バランスが改善して、低価格茶が国産で得られるようになった。

